

# 令和5年度 矢巾町予算編成方針

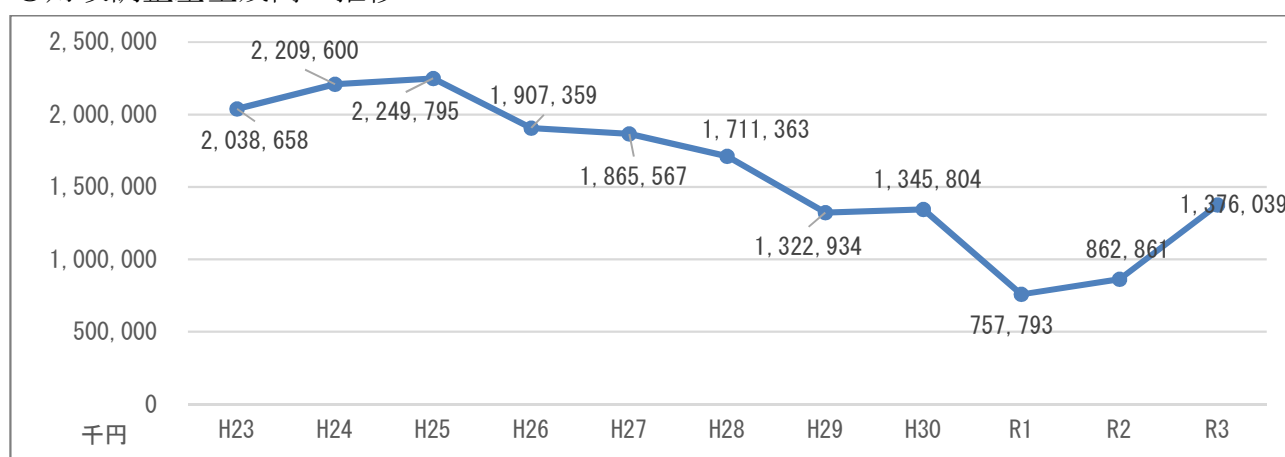
## ◆本町の財政状況

本町の歳入は、近年、岩手医科大学関連事業など、大規模事業に係る国庫補助金及び新型コロナウイルス対策関連交付金により、大幅な歳入増となっている。

今後はコロナの落ち着きとともに減少し、民間宅地開発による数年間の税収増は見込まれるものの、少子高齢化が進み緩やかな人口減少の中では全体として横ばいから減少となる見込みである。

このような財政状況にあって、補助金等の積極的な活用、ふるさと納税の取り組みなど、各所属の創意工夫により、財政調整基金の残高は平成30年度末の水準まで回復したところであり、引き続き、町政運営に必要な収入の確保に努めていく。

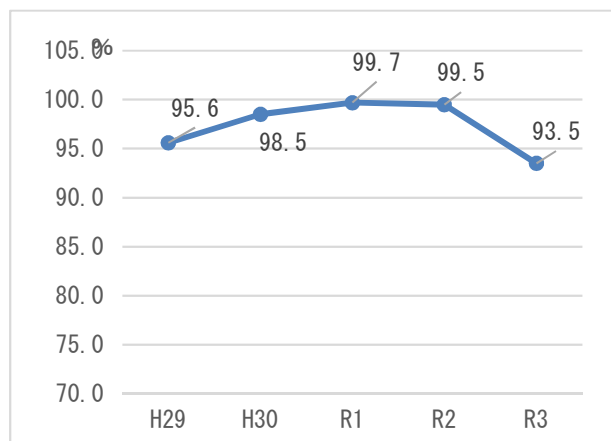
○財政調整基金残高の推移



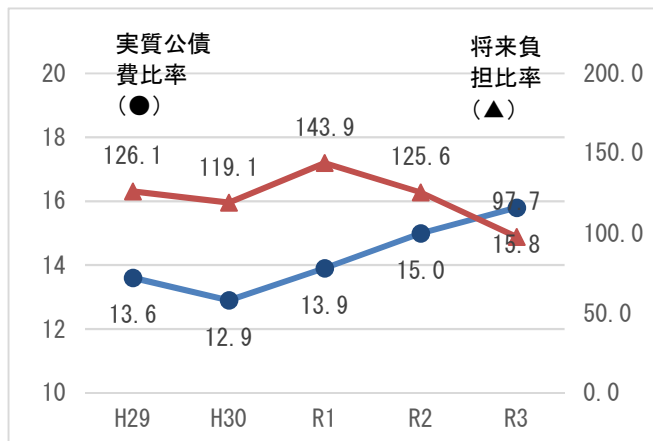
歳出では令和2年度以降、普通建設事業を中心に削減し、過大であった予算規模の適正化を図ったことや、ふるさと納税による経常財源の増加により、経常収支比率も改善傾向にある。同様に実質公

債費比率(※単年度指標は改善)や将来負担比率も改善傾向にあることから、財政健全化への取り組みを継続していく。

◆経常収支比率の推移



◆実質公債費比率・将来負担比率の推移



## ◆基本方針

令和5年度の当初予算は、第7次矢巾町総合計画の総括として、特定財源を有効に活用して各種施策等を着実に進めるため、令和4年度当初予算から公債費減少分を除いたうえで、財政調整基金取崩額抑制に努めつつ、107億円規模を目標として編成する。

予算要求にあっては、総合計画の枠（縦割り）にとらわれず目的達成に向けた俯瞰的な視点を持って選択と集中に努めること。

特にも、扶助費、ごみ処理負担金削減など、将来負担の抑制に繋がる取り組みを推進するとともに、次期総合計画に向け、公共施設整備のあり方について既存の事業手法にとらわれない実現可能な手法の検討を行うこと。

持続可能な未来のため、将来に繋がる予算要求を期待する。

## ◆指示事項

1. 全職員が本町の財政状況について正しく理解し、選択と集中により限られた財源を有効に活用する施策を展開すること。
2. 「第7次矢巾町総合計画後期基本計画」を総括するため、各種施策・事業は、進捗状況を確認の上、必要な経費を計上すること。
3. 前向きで活力に満ちた行政運営を行うとともに、すべての事業において創意工夫と質の向上に努め、次世代に向けた投資を効果的に行うこと。
4. 事業立案段階において、国・県補助金等の特定財源の活用を最大限図るとともに、ふるさと納税の推進、使用料・手数料の見直し、未利用資産の利活用・処分、収入未済額の解消を図るほか、積極的に歳入確保に努めること。
5. 既存事業については、前年度の予算を単純に継続せず、これまでの取組成果を評価検証した上で、必要最小限の予算を計上すること。特に委託料（指定管理料含む）及び団体への補助金については、内容精査のうえ必要な見直しを行うこと。
6. 他所属課の事業についても積極的に情報交換等を行い、総合計画の枠を超えた組織間連携により効果的な事業展開に努めること。

7. 公共施設の長寿命化等を実施するとともに、既存施設・設備の更新については、統廃合、機能統合やライフサイクルコストの検証、官民連携手法を含めたあらゆる検討を行うこと。
  
8. 新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、ウィズコロナ、ポストコロナにおける町民の生活、町内事業者等の経済活動を支援する取り組みを補助金、交付金等により推進すること。
  
9. 令和4年度に引き続き、財政健全化に全庁を挙げて取り組むこと。選択と集中により人件費を含めた業務全体の見直しを行うとともに、扶助費等、将来負担の抑制に繋がる取り組みを行うこと。